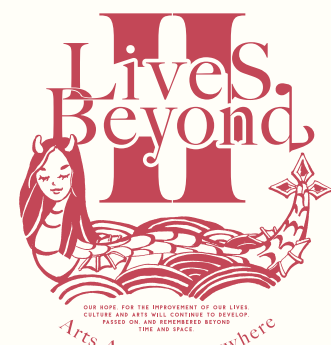




「佐賀県アーツコミッション」では、県内の様々な場所、人、モノを繋ぎ、新たな文化シーンの創出に取り組みんでいます。アーツコミッションが取り組む「ライブズビヨンドII」の第6弾として昨年11月20日(月)、唐津市にある国指定の重要文化財「旧高取邸」を会場に「一日だけの高取家コレクション展」が開かれました。また同展覧会に併せて、旧大島邸で、アーツコミッション・アドバイザリーボード委員の東京大学総合研究博物館客員教授 洪恒夫氏、じゃらんリサーチセンター・センター長 沢登次彦氏を迎え、九州陶磁文化館 鈴田由紀夫館長を交え「佐賀県アーツコミッション第3回文化講演会」が開催されました。

田中裕之

佐賀県文化振興アドバイザー
佐賀県アーツコミッションプロジェクトマネージャー



田中 こんにちは。一日だけの高取家コレクション展「いかだったでしょうか。『旧高取邸』という国の重要文化財。この建物は一般公開されていますが、その建物をもう一步踏み込んだ形で活用できないかと考えて、今回、唐津市と唐津市観光協会に持ち掛け、ようやく実現いたしました。本日はその展覧会に併せて、「唐津焼などの文化資源をどう観光に活かしていくのか」というテーマでクロストークを行います。洪先生よろしくお願います。

洪 承知しました。まずは今回の展覧会について、鈴田館長に高取家コレクションの価値や出張展示の意義についてお話をいただければと思います。

鈴田 九州陶磁文化館は、高取家から3428点ものコレクションをご寄贈いただいています。最初に寄贈いただいたのは、最初の部屋で紹介した白い三川内焼の馬の香炉です。昭和62(1987)年に、『日本の白磁』という展覧会を企画した際に、高取家の方々は、出品を非常に喜ばれ、それをご縁に寄贈いただきました。そしてさらに、平成19(2007)年に磁器ものを中心に約1700点を寄贈いただきました。高取家の焼物は、その多く

洪恒夫

コーディネーター
東京大学総合研究博物館客員教授



は、お客様をもてなしたり、床の間に置くためなど自然に買い集めたものだから「コレクション」という名称にはなじまないと高取さんは言われておりましたが、その13年後の2020年に残りの約1700点を寄贈いただいた折に、「高取家コレクション」と呼ぶことを承諾していただきました。今回の展示はその膨大な数のコレクションの中から旧高取邸の各部屋を飾るのにふさわしい14点を選びました。中でも能舞台のある部屋に展示しているのは、一つは佐賀藩が一流の陶工を集めて献上するために作った鍋島の名品です。そしてもう一つは、古田織部がわざ



とひしゃげた焼物こそおもしろいと言っ

沢登次彦

じゃらんリサーチセンターセンター長



聞く機会がないということ。「一日だけ」というのは、なかなか難しいテーマで、費用対効果からいえば難しいのでしょ

誇ったり、愛着を持ったたりしている例が、海外に比して相当低いのです。そうすると、せっかく地域を訪れた人に地域の魅力を伝えきれなくなってしまう。

洪 私、九州陶磁文化館のリニューアルの話をずっと聞きたいと思っていました。地元の人たちも、その展示を見ることでいろいろな気づきとか愛着が生まれてくるようなアプローチだと思っているのですが。

洪 九州陶磁文化館のリニューアルは我が国の文化観光の旗振り役でもあるデービッド・アトキンソン氏が、国内で文化観光に資するリソースをピックアップしたときに有田が候補に挙がったことがスタートでした。議論する中で、鈴田館長が九陶を訪れた人についても「有田焼の履歴書」という視点で解説していると言われたことをヒントに、有田焼はどのようにして生まれ、どのように力を発揮するようになったのかということをインバウンドの方々にもしっかりと伝える展示にしようと考えました。その展示がきっかけになって有田焼に興味を持ってもらい、有田の散策や購買にも繋げていけるようになればと思います。

洪 海外旅行に行くと、博物館美術館をまず訪れて、その地域のことを理解してから旅行すると満足度に差が出ます。日本ではそのゲートウェイである場所というのが地域にないというのが課題ですが、九陶はその役割も果たし得るのです。

鈴田 私は今日、能舞台のある部屋の解説を担当したのですが、この器は大きいから1キロぐらいあるんじゃないですかという話になり、思わず私は手に取ってその人に持ってもらったのです。手に取っていただいて「これだったらちゃんとお茶が飲めるね。」と言われました。

洪 まさにこの辺りが、唐津焼が活かされるチャンスだと思っています。次は、唐津焼に触れて、飲んで、食べてという場所を設けたりして、発想を広げていけばいい。そうすれば一人の人の滞在時間が延びて、その人と唐津の繋がりが一回で終わらずに、生涯に亘って何度も来る地域になっていくと思います。

今、文化観光に求められること

洪 最近、文化観光という言葉としてよく語られてますが、コロナ終息後の観光の動き、文化観光に求められるものは何でしょうか。

沢登 インバウンドが回復し、外国人の多くはその土地にしかないもの、日本にしかない価値、つまり文化に関心を抱いて日本を訪れています。文化観光は日本人にとっても大きな伸びしろで、コロナ後は特に旅の目的を明確にする人や移住先を探す旅行者も増えています。住んでいる人が地元を誇り、愛着を持ってこそ文化観光は進みます。ただ、日本は、地域の人たちが地元のことをそこまで

鈴田由紀夫

佐賀県九州陶磁文化館館長



洪 今、唐津焼ミュージアムの話が出ましたが、この地域の資源価値をいっそう高めていくためにも、何かアクションを起こすことは大切で、文化観光にも繋げる視点が必要だと思っています。そのことが新たな効果を生むことにも通じるのだと思います。